セルフジャッジにおけるボールマークチェック

(Ball Mark Inspection=BMI)について

出典:日本テニス協会 テニスルールブック 2025 年度版

1. BMI は、クレーコートのみで行なわれる。

2. プレーヤーが BMI を要求できるのは、ポイントが終わった直後、もしくはプレーヤーがプレーを停止した時のみである。(返球は許されるが、そのプレーヤーは返球後、直ちにプレーを停止した場合に限る)

3. マークの位置をはっきり覚えていない時、あるいは判定できるほどのマークが残っていない時は、最初のコールが成立する。

4. クレーコートでは、相手プレイヤー・チームにボールマークの確認を要求できる。必要であれば、相手コートへ行ってボールマークを見てもよい。判定や示すボールマークが相手と食い違った場合、レフェリーが両者から状況を詳しく聞き取り最終判断をする。

5. プレーヤーが自らボールマークを消した場合は、プレーヤーは最初のコールまたは、最初のオーバールールが誤りであると認めたと判定する。

＊よく見られるケース

相手がアウトコールをしなかったが、ボールマークを見てから遅れてアウトといった場合

→その相手選手がプレーを止めて、ボールマークを見てからアウトとすることはできる。

プレーが一通り終わった後に、途中のボールがやはりアウトだったとすることはできない。